

転機、
新たなチャレンジ...

これが私の、

変えた わった わりたい

市制施行120周年
高松市も今年は”転機”の年
高松市 大西秀人市長(50)



人 生の大きな変化といえば、やはり高松市長になったこと。今までの生活が一変、慣れるまでは心身とも大変だったそう。そこで、意識して“変えた”ことは一。

「ウォーキングです!生活を夜型から朝型にして、ほぼ毎朝4~5km歩いているんですよ」。おかげでダイエットにもなったのだとか。「それに、歩きながら考えると、脳が活性化してアイデアが浮かぶ、と聞いたことがあります」。

そのウォーキング中に考えるのは、ほとんどが仕事のことです。

まず、今年市制施行120周年という節目の年。「私は“2度目の還暦”と言っています。暦がひと回りしてもとに戻るように、高松市の街づくりも原点に帰って取り組んでいきたいですね」。折しも、記念日となる2月15日に街づくりの基本となる「高松市自治基本条例」が施行されました。

社会が大きく変わる中で、「本当の豊かさ」「何が幸せなのか」を考えていくと、大切なのはやはり人と人のつながり。地域のコミュニティを基本に、身近な問題を自分たちのこととして考え、市民一人ひとりが街づくりに参加する、という姿が理想、と熱く語ります。

リフレッシュするはずのウォーキングで、そんなにいろいろ考えていたら、大変なのでは一。

「そうですね。ほかに趣味といえば書道でしょうか。オンとオフを上手に切り替えられるよう、新たなリフレッシュ法を見つけないと」。新たな高松市の街づくりとリフレッシュ法一公私ともに「変えたいこと」「挑戦したいこと」は、まだまだあるようです。